

最高級DAコンバータ DA-2000

どうしても「究極の」と言いたくなる
DAコンバータが完成しました。
デジタル再生で「原音」を追求すると、
音は優しく、そして静かになり、
音楽の楽しさだけを明確に表現できるようになります。
本機を聴かずに16ビットCDの限界を
論ずるのは早計というものです。



¥ 680,000 (税別)

DA-2000の特長

発売まで6年をかけた「DA-1000」において、ひたすら音の純度を保つことのために開発した「電流/電圧変換モジュール」と「電源スタビライザ(電源安定化回路)」を世に問いました。

次に考えたことは、その延長線上において「音に良いテクニックの総て」を完全に拾い上げることでしたが、それには3年を要しました。

ようやく、ここに当社の持つすべてのノウハウを聴いて戴けることになったことは大きな喜びです。次の項目が新たなプレゼンテーションです。

1. 音質を劣化させないため、デジタル/アナログ ハイブリッドのポリウムを開発しました。音の鮮度を重視する「パワーアンプ直接駆動派」への配慮です。1dBステップで全48dBのポリウムで、最大音量時にはデフィートになります。
オプションでリモコンユニットが用意されています。
2. 「コンベンセータ」が装備されています。小型スピーカシステムなどで低音に不満がある場合、あるいは小音量時の聴感補正用として、重低音領域を補強する機能です。
3. 徹底した「部品のセレクト」を実施しました。もちろん測定もしますが、バイパスコンデンサをポリプロピレンにするか、スチコンか、マイカか、の判定は膨大な回数のヒアリングによります。それに3年をかけました。

DA-2000の音

1. 「デジタル臭い音」からの解放

CDの音が「きつい音」「デジタル臭い音」と毛嫌いされてきた原因のほとんどの責任はDAコンバータにあったのです。アナログ時代に、カートリッジの向上によってLPの音は目覚ましい進歩を遂げました。まったく同じことがCDプレーヤのDAコンバータにも言えるのです。

この「デジタル臭い音」からの解放が最大の念願でした。

2. 「高分解能」と「高鮮度」の前進

DA-1000では「I/Vコンバータ」が高分解能と高鮮度の実現に大きく寄与しました。その部分がかもう一度大きく改良され、徹底した部品のセレクトとあいまって「音の優しさ」の表現を確かなものにしました。フルートの空気の擦過音の軽さ、松脂を塗られた弦の渋り、どれも生の音を至近距離に聴くときの印象です。それが嫌味を伴わずに出せるようになりました。

3. 「空間の拡がり感」と「静けさ」の表現

静けさの表現とは、余韻、残響などの極微の音が、空間の果てに退き切るまでの立居振る舞いを、どこまで鮮やかに保てるかですが、これが可能になると、静けさの本質と、具体的には録音現場の空間の拡がりが見えてきます。視力2.0の感性を耳に与えたら斯くもあらんか、という感じです。

仕 様

方 式	8倍オーバーサンプリング/20ビット DA コンバータ	
対応サンプリング周波数	32 kHz/44.1 kHz/48 kHz	
デ ジ タ ル 入 力	RCA/OPT/BNC/XLR (BAL) /AUX (オプション)	
コ ン ペ ン セ ー タ	1	fc : 70 Hz (+ 3 dBmax)
	2	fc : 150 Hz (+ 6 dBmax)
オ ー デ ィ オ 出 力	RCA (UNBAL)	
バランス出力(オプション)	XLR (キャノン)	
音 量 調 整	1 dB ステップ全 48 dB	
音量調整リモコンユニット	オプション	
寸 法 / 重 量	440 W×380 D×100 H/13 kg	



[DA-2000リアパネル]

株式会社 日本オーディオ

〒164 東京都中野区中央5-4-24 第5小河原ビル501号
TEL 03 (5340) 3020 (代) FAX 03 (5340) 3023